

アフリカ地域から研修員 11 名来日

JICA 研修プログラム「アフリカ地域 稲作収穫後処理」

8月18日より山形県内にて研修開始

「信頼で世界をつなぐ」をビジョンに掲げ、日本の政府開発援助(ODA)実施機関として開発途上国への国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構 東北センター(所長:花立大民、所在地:宮城県仙台市、以下:JICA 東北)では、アフリカ地域 11 か国から農業分野の若手行政官や技術指導員など 11 名を招聘し、山形大学農学部を研修実施機関として、8月12日から9月28日まで東京都・山形県・秋田県において「コメの収穫や保管」に関する研修を行います。

本研修は、アフリカの国々が掲げるコメの自給率向上に貢献することを目標にしています。山形大学農学部が、地方自治体、企業、JAなどと協力して、適切な収穫時期の選択や流通前の品質劣化や生産ロスを防ぐことに焦点を当て、農業指導に従事する関係者を対象に、稲作収穫後処理技術の改善に資する技術研修を実施します。講義に加え、稲刈りや籾摺り・品質検査などの実習、乾燥施設や農業機械工場の見学もあり、生産から流通に至るまで全体像を学ぶ研修です。

取材をご希望の方は、下記お問い合わせ先の入力フォームを用い①氏名、②Email アドレス、③電話番号、に加え、④「お問い合わせ内容」に、「社名・部署名」、「取材スタッフの構成」、「取材希望日時・プログラム」を明記し、余裕をもってお申込みください。

【研修概要】

研修コース名:課題別研修「アフリカ地域
稲作収穫後処理」

来日期间:2025年8月12日~2025年9
月28日(47日間)

研修参加国:ブルンジ、カメルーン、コートジ
ボワール、コンゴ民主共和国、マダガスカル、
モーリタニア、ルワンダ、スーダン、トー
ゴ、ザンビア、エチオピア 合計 11 名

【取材申込みフォーム・本件に関するお問い合わせ先】

<https://forms.office.com/r/HsCRWCg7pw>

JICA 東北 総務課 担当:俵山

※直前の取材申し込みの場合、
お断りする場合がございます。
予めご了承ください。





【研修スケジュール】

※活動期間中は研修監理員が同行し、通訳(日本語-仏語、英語)を行います。
 下記スケジュールは仏語圏用となり、英語圏スケジュールは一部異なります。

日付	活動内容	宿泊地
8/12(火)	● 来日	東京
8/13(水)	● 午前 ブリーフィング (於 JICA東京) ● 午後 PCM研修 (於 同上)	東京
8/14(木)	● 午前 講義 圃場を中心とした稲作作業 ● 午後 PCM研修	東京
8/15(金)	● 午前 講義 アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD) ● 午後 PCM研修	東京
8/16(土)	● 午後 PCM研修	東京
8/17(日)	● 移動日 (東京→山形県鶴岡市)	山形
8/18(月)	● 午前 山形大学農学部 大学案内など ● 午後 プログラムオリエンテーション	山形
8/19(火)	● 午前 講義 ポストハーベストの問題分析(1) ● 午後 講義 ポストハーベストの問題分析(2)	山形
8/20(水)	● 午前 討議 プレアクションプラン・カントリーレポートの紹介 ● 午後 討議 プレアクションプラン・カントリーレポートの紹介	山形
8/21(木)	● 午前 講義 適切な栄養管理 (1) ● 午後 講義 適切な栄養管理 (2)	山形
8/22(金)	● 午前 講義 収量と収量構成要素 ● 午後 講義 稲と水	山形
8/23(土)	休日	山形
8/24(日)	休日	山形
8/25(月)	● 午前 講義 稲作のポストハーベスト(1) ● 午後 講義 稲作のポストハーベスト(2)	山形
8/26(火)	● 午前 講義 米のカビ汚染防止のための管理 ● 午後 視察 高坂農場圃場見学	山形

取材のご案内



独立行政法人国際協力機構
東北センター
2025年8月1日

8/27(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 日本の稲作の農業機械化(1) ● 午後 講義 日本の灌漑 	山形
8/28(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 協同農業普及事業の概要と実際の普及活動について ● 午後 講義 水田農業研究所の研究内容紹介 	山形
8/29(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 灌漑施設・月山ダム見学 ● 午後 視察 農業機械展見学 	山形
8/30(土)	休日	山形
8/31(日)	休日	山形
9/1(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 実習 水分と品質測定(実習)(1) ● 午後 実習 水分と品質測定(実習)(2) 	山形
9/2(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 大規模稲作見学(秋田県大潟村) ● 午後 視察 大規模稲作見学(秋田県大潟村) 	秋田
9/3(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 大規模稲作見学(秋田県大潟村) ● 午後 視察 大規模稲作見学(秋田県大潟村) 	秋田
9/4(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 大規模稲作見学(秋田県大潟村) ● 午後 視察 出羽ノ雪 酒造資料館 	山形
9/5(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 水田の害虫、防除、生態系～日本と東南アジア ● 午後 講義 米の食味試験 	山形
9/6(土)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 水田農業試験場参観デー ● 午後 休日 	山形
9/7(日)	休日	山形
9/8(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 営農からみたJAの役割について ● 午後 視察 JA鶴岡施設見学 	山形
9/9(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 実習 籾摺り機の性能評価(実習)(1) ● 午後 実習 籾摺り機の性能評価(実習)(2) 	山形
9/10(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 アクションプラン中間報告 ● 午後 アクションプラン準備 	山形
9/11(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 松ヶ岡開墾記念館「庄内の米づくり用具」収蔵庫見学 ● 午後 視察 農業機械工場見学(山本製作所) 	山形
9/12(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 適期収穫期などの重要性、適期判定法 ● 午後 実習 収穫適期判定(実習) 	山形
9/13(土)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 わんぱく農業クラブ ● 午後 休日 	山形
9/14(日)	休日	山形
9/15(月)	休日	山形

9/16(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 稲生理生態の基礎と栽培技術 ● 午後 実習 小型機械を用いた収穫調整(実習) 	山形
9/17(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 視察 酒田米菓オランダせんべいFACTORY見学 ● 午後 視察 農業機械工場見学(石井製作所) 	山形
9/18(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 日本の稲作の農業機械化(2) ● 午後 アクションプラン準備 	山形
9/19(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 実習 精米機の性能評価(1) ● 午後 実習 精米機の性能評価(2) 	山形
9/20(土)	休日	山形
9/21(日)	休日	山形
9/22(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 アクションプラン準備 ● 午後 実習 小型機械を用いた水稻の収穫 	山形
9/23(火)	休日	山形
9/24(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 講義 圃場試験計画(1) ● 午後 講義 圃場試験計画(2) 	山形
9/25(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 アクションプランに関する総合討論 ● 午後 アクションプランに関する総合討論 	山形
9/26(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 アクションプラン発表会 ● 午後 修了書授与式 	山形
9/27(土)	● 移動(山形県鶴岡市→東京)	東京
9/28(日)	● 帰国	

【2022年度の本研修の様子】

[【課題別研修】アフリカ地域稲作収穫後処理／稲刈り時期の日本で2年半ぶりの研修を開催。山形県鶴岡地域の知見を学び、自国のコメ作りや管理に活かす | 日本国内での取り組み - JICA](#)

■独立行政法人国際協力機構（JICA）について

JICAは、開発途上国が直面する課題を解決するため、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など日本の政府開発援助（ODA）を一元的に担う二国間援助の実施機関で、150以上の国と地域で事業を展開しています。

国際社会の課題は日本とも密接に関係しています。国内外のパートナーと協力してそれらの解決に取り組み、世界の平和と繁栄、日本社会の更なる発展に貢献します。

詳しくは<https://www.jica.go.jp/index.html>をご覧ください。